



発行 社団法人 日本品質管理学会  
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内  
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507  
 ホームページ:www.jsqc.org/

## CONTENTS

- 1-トピックス JOQI、8つの部会による“新しいシステム・しくみ”の提案
- 2-私の提言「アジアへ行こう。インドへ行こう。AQSでエネルギーを取り戻そう」
- 2-ルポルタージュ 第90回講演会ルポ (関西)
- 3-ジュラン博士の100歳誕生パーティに参加して/第298回見学会ルポ (中部) /5月の入会者紹介
- 4-行事案内/教官公募

## JOQI、8つの部会による“新しいシステム・しくみ”の提案

日本ものづくり・人づくり質革新機構 事務局長 慈道 順一

日本ものづくり・人づくり質革新機構 (Japan Organization for Quality Innovation: 略称JOQI、理事長: 高橋 朗 (株)デンソー会長) は、5月28日経団連会館にて、第4回総会を開催し、3年間の活動を終了し、JSQCを始めとする諸団体に今後の活動を引き継ぎました。

8つの部会が、新しいシステム・しくみを提案し、部会活動報告書にまとめました。

### □高橋 朗理事長の喜びの挨拶

経済産業省を始めとする国の諸機関およびJOQI会員各位のご支援に感謝されると共に、部会長・部会員のボランティア活動による研究開発成果を高く評価されました。

開発成果が、企業・業界の“ものづくり・人づくり”に、国の諸施策に活用されることを期待しています。“里親 (国の諸機関・諸団体)”にて、さらに成果を研ぎ、発展させて欲しいとの諸団体への期待が述べられました。

### □経済産業省 藤田 義文産業機械課長のご祝辞

故小渕首相の“ものづくり懇談会”の展開の一環として、このJOQIの活動に協力してきました。3年間の短期間にも拘わらず、有意義な各種提案を戴きました。高橋 朗理事長の提案が、国の人材育成などの施策に活用できるように今後とも協力をした



第4回総会写真 (高橋 朗理事長挨拶)

いとのこと祝辞がありました。

### □8つの部会による

新しい“システム・しくみ”の提案 “日本型経営モデル”を構成する8つのテーマの成果が、報告書にまとめられ、公表されました。(\*)

①新商品開発部会: 「ものがたり新商品開発」(A5版)と題する物語風の小冊子を作成し、まもなく出版予定です。

②ビジネスプロセス革新部会: 生産プロセスの具体例が「ビジネスプロセス革新の最前線」にまとめられました。

③顧客価値創造部会: 「顧客価値創造ハンドブック—製造業からサービス業・農業まで感動を創造するシステム—」(A5版)が出版されました。

④経営システムの自己診断法開発部会: 「経営システムの自己診断方法」と「付録 自己診断表一覧」が作成され、出版およびweb公開を準備中です。

⑤経営幹部づくり部会: 「技術系経

営幹部育成プログラム提言報告書」が作成され、経営者育成の提言がされました。⑥クオリティの専門家づくり部会: 「ものづくり再生のためのクオリティ専門家養成に関する提言」が作成され、国の施策における採用が検

討中です。

⑦職場第一線の人づくり部会: 「職場第一線人づくり・実務ノート」に加えて、「職場に夢を個の成長を目指して」(最終報告書)が経営者に提言されました。

⑧医療の質向上部会: 「ISO9000を機軸とする医療マネジメントシステムモデルの構築」がまとめられ、国の標準化事業に活用されました。

### □“里親”による成果の普及・展開

JOQIは、高橋 朗理事長の願いから産官学の大同連携を目指した活動を進めてきました。その成果は、経済産業省を始めとする行政機関や日本規格協会、日本科学技術連盟およびJSQC等の所謂“里親”に引き継がれ、成果の普及・課題の展開等は、里親の今後の活動に委ねられることになりました。

\*成果報告書 (13種類) 200セット限定  
 1セット12,600円 (消費税・送料込み)  
 問合せ先: JSQC事務局

## ● 私の提言 ●

アジアへ行こう。インドへ行こう。  
AQSでエネルギーを取り戻そう。

財団法人 日本科学技術連盟 嘱託 安藤 之裕



いよいよ、本年8月16日～19日インド（ニューデリー）にて行われる、第2回アジア品質ネットワーク（Asian Network for Quality : ANQ）

Congress 及び第18回アジア品質シンポジウム（18th AQS）が迫ってきました。もう、お申し込みはお済みでしょうか。（詳細は当学会ホームページをご覧ください。）

本シンポジウムは、従来KSQM（韓国）、CSQ（Chinese-Taipei）とJSQCの3組織が開催してきたものを、昨年のANQ設立を機にアジアにおける12の品質に関する組織が開催するシンポジウムに拡大し、グローバル社会におけるアジア品質の更なる向上を目指して議論しようという

ものです。著しい変貌を遂げているアジアの品質リーダー達と交流し、中でも、色々な意味で「中国の次」とされるインドを体感できる絶好の機会として、広く本会会員の皆様にご参加をお勧めしたいと思います。

最近、インドやタイを訪問して感じることは、まさに、その圧倒されるばかりのエネルギーです。1400名を超す参加者で大盛況となった昨年の国際QCサークル大会（ICQCC 2003）時に多くの日本人参加者が感じたあの大きなエネルギーです。何でも吸収してやろうという貪欲なまでの知識欲と失敗を恐れず挑戦する積極性そして、いかにもアジア的な人なつっこさと言えるものでしょうか。そして、それが、今、着実な変貌を遂げていると言えるでしょう。GDPの急激な成長に見られるようなマクロ指標の他にもミクロ的にも着実な変化が現れているようです。私

がお会いしたインド南部ケララ州出身の方の村では、総世帯数約800の内、5年前には自動車を持っている家など無かったのが、現在ではほぼ300世帯が持つようになったということでした。

それに対して、やっと景気面では薄明かりが見え始めてきたとはいえ、今、我々日本の品質関係の人々はしらけてしまっていないか、熱い志を失ってしまい小市民的になっていないか、新しい挑戦に対して消極的になっていないかと感じています。あるいは「品質ならば絶対に負けることなどありえ無い」と傲慢になってしまっていないかとも感じております。「まだまだインドなんか」「わざわざインドまで」とお考えの会社は、遠からず電話帳から消えてしまうのではないかと懸念しています。

今、まさにNHK大河ドラマの舞台ともなっている幕末から明治にかけての人々の熱意とその膨大なエネルギー、そんなことを思い起こさせてくれるのが今のアジアでありインドであると思う次第です。

そうだ、アジアへ行こう。インドへ行こう。AQSでエネルギーを取り戻そう。

第90回関西  
講演会ルポ(株)ジーシーデンタルプロダクツ  
におけるTQM推進と  
デミング賞への挑戦

賞の重みと感動を改めて参加者に与えて頂いた。

GCDP社のTQM活動は1980年のQCサークル導入から始まり、GQC、GQM活動として全社的に展開されISO9002、ISO14001認証取得を経ながら、2003年度デミング賞の受賞となった。受賞直前の2001年にはGQM強化宣言がなされ、以下の8つの機能別に展開が強化された。すなわち、(1)方針管理、(2)品質保証、(3)新製品・新技術開発、(4)生産量管理、(5)利益管理、(6)人材育成、(7)標準化・IT化、(8)環境管理であった。これらの8機能をGCDP社の独特な実施方法でTQM活動として展開された。特にDPPIと呼ばれる工場革新プログラムでは他社の追随を許さない輝きがある。

受賞までの苦労話が講演のみならず配付資料でも多くご紹介があった。また、質疑応答ではSQC手法活用、GQM活動の仕組み、受賞して良かったこと悪かったこと、女性の人材開発、ヒカリモノなど山口常務や指導の細谷先生を交えて丁寧にお教え頂いた。

講評での岩崎関西支部幹事長の「当たり前を進め方を地道にやって好業績を実現している」が印象深い。

泉井 力（関西大学）

平成16年3月13日(土)エス・バイ・エル(株)S×L梅田ホールにて講演会が開かれた。

中島支部長の挨拶の後、(株)ジーシーデンタルプロダクツ（以下GCDP）経営企画室岡田政剛氏（受審時はGQC推進室課長）に依る講演はデミング賞実施賞の受賞の経緯を懇切丁寧にご説明頂いた。またご講演の内容は選考理由で示された事柄を網羅されていた。すなわち、「社は『施無畏（せむい）』に基づいて、『相手の立場に立った取り組み』を全社的に展開し、独自のアプローチのVISION経営を推進しており、全社一丸となって品質経営の向上に努めてきた結果、意欲的な新製品開発がなされ、顧客満足の向上、人材の育成がはかれるとともに着実に業績をのばしている」という内容であった。

岡田講師の自信に満ちたお話しはデミング賞実施



## ジュラン博士の 100歳誕生パーティーに参加して

小浦孝三（小浦孝三技術士事務所所長）

わが国のTQMの発展に大きな貢献をされたJ.M. Juran博士は自分を“ARCHITECT OF QUALITY”とされ、お誕生祝賀パーティー“A Century of Juran”が、5月6日米国、スタンフォード市、スタンフォード・マリOTT・ホテルにて行われた。東京理科大学・狩野紀昭教授と筆者の2人が出席し、日科技連からの朝香鐵一先生など12名の寄せ書きとお祝いの品（輪島塗器）を届けた。

祝賀会は11時—16時のオープン・レセプションから昼食パーティーとに分かれ、参加者は約150名で、20テーブル、各テーブルにはJuran Familyが多数列席され、テーブルの上には、博士の肖像を刻んだメダルがおみやげとしておかれていた。

Juran研究所会長：Mr. Bluesteinと社長・CEO：Mr. DeFeoの歓迎の辞のあと、昼食を挟んで友人・家族・同僚の方々から祝辞があり、狩野教授も「Juran博士が1954年以来しばしば来日セミナー・講演・指導を通じて日本産業界に大きなインパクトを与えその品質改善に貢献された」と感謝の意を込めて祝辞を述べた。最後にJuran博士の閉会のRemarksがあり、ご令息の挨拶と音頭で参加者全員が起立、“Happy Birthday to You!”の歌声とともに2人の孫娘さんによって運ばれた巨大なチェスのセットが贈られ閉会した。ジュラン博士のご健勝とジュラン研究所の今後の発展を心から祈りたい。



## 第298回中部 事業所見学会 ルポ

### 中部国際空港 「セントレア」

2004年4月13日(火)第298回（中部支部第72回）事業所見学会が、2005年に開港予定の中部国際空港「セントレア」にて開催。『中部国際空港における環境対策について』のテーマのもと、総勢44名が参加した。

冒頭中部国際空港株式会社代表取締役社長の平野幸久様より、ご挨拶と工事進捗や設備テスト状況をご説明頂いた。次いで同社調整部環境室環境企画グループ課長の片岩様より、セントレアでの環境対策についてのご説明を頂いた。太陽光発電やGPU（地上動力施設；駐機中の航空機に電力等を供給し排ガス・騒音を削減）の導入といった開港後の環境対策はもちろん、建設中でも大型車両の海上輸送や廃棄物の徹底分別など自然環境・周辺環境に配慮し、空港建設事業としては初めて工事中のISO14000規格を取得されており、非常に感銘を受けた。島の周囲には藻場と呼ばれる自

然石を使用した岩礁性藻類の育成基盤を造成、海域生物の新たな生育環境の提供を試み、成果を上げられている。

同社森様のご案内により、見学バスにて空港島に渡り、建設中の建物を車中から視察後、滑走路脇の高さ15mの仮設展望台に登った。そこから空港島全体が見渡せ、そのスケールの大きさに感動した。この展望台は開港までには撤去されるとのことで、非常に良い経験になった。見学の最後には参加者全員に「見学証明書」が配布された。当日の時点で既に10万人を超える見学者が建設現場を訪れているようであった。

質疑応答では、建設中のISO14000取得・維持に関し、多くのJV業者への内部監査等についての質問や、藻場の育成に関しては多くの苦労があったこと、今後はいよいよ飛行機を飛ばし騒音に対する調査が始まることなど、活発な議論がなされた。また質疑応答の前に、完成後のターミナルビルのプレゼンがあり、ビル内部に、飛行機を利用しなくても楽しめるレストランやショップ、リラクゼーション等の施設が多数計画されており、是非開港後にも訪れたいと思った。

水谷 政昭（新日本製鐵株）

## 2004年5月の入会者紹介

（正会員16名）○江成 啓（元・日野自動車株）○片岡 真由美（イカリ消毒株）○浅野 康人（浅野行政書士事務所）○吉田 徹（宮城県産業技術総合センター）○松崎 亮一（日本電気株）○小林 幸夫（三菱電機株）○浅子 健太郎（白十字株）○高橋 大地（筑波大学）○尾崎 哲児（関西ペイント株）○渡辺 美智子（東洋大学）○一

瀬 光子（元・株紀文食品）○原 正雄（株ワコー）○西川 泰藏（独新エネルギー・産業技術総合開発機構）○松本 治男（財日本科学技術連盟）○王 健鉄（三喜産業株）○横木 和清（株日本総合研究所）

（準会員14名）○山川 優・山内 貴志（長岡技術科学大学）○衣川 洋輔（山梨大学）○大田 裕二・下野 勉・細田 茂

治・諸星 裕一（明治大学）○岡本 欣久・石坂 論之・安信 研吾・鈴木 佑（東京理科大学）○前川 徹彰（筑波大学）○目黒 英昭（茨城大学）○河野 真治（電気通信大学）

正 会 員：3108名  
準 会 員：117名  
賛 助 会 員：177社203口  
公 共 会 員：22口

## 行事案内

## ●第299回事業所見学会（本部）

テーマ：「シックスシグマと小集団活動」

見学先：住友建機製造(株)

千葉市稲毛区長沼原町731-1

日 時：2004年7月2日(金)13:30~16:30

定 員：30名

申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

## ●第97回（中部支部第23回）シンポジウム

テーマ：『日本のものづくり・人づくりに求められているもの』

～JOQIの提言から、今後の方向を探る～

日 時：2004年7月13日(火)10:50~16:55

会 場：中電本店ビル 中電ホール

プログラム：

基調講演：“お客様第一”のモノづくり、人づくり、絆づくり（仮題）

佐々木眞一氏（トヨタ自動車(株)）

「日本ものづくり・人づくり質革新機構（JOQI）」活動報告

高橋 朗氏（(株)デンソー・JOQI理事長）

パネル討論会：

事例講演① 神田範明氏（成城大学）

事例講演② 長田 洋氏（山梨大学）

事例講演③ 吉川智教氏（早稲田大学）

事例講演④ 大滝 厚氏（明治大学）

事例講演⑤ 米山高範氏（コニカミノルタホールディングス(株)）

定 員：200名（会員優先）

参加費：会 員5,000円・準 会 員2,500円

非会員7,500円・一般学生3,500円

申込方法：会員No.・氏名・勤務先・所属・TEL・連絡先・住所を明記の上、

中部支部事務局までお申し込み下さい。

申込締切：2004年7月7日(水)到着分

## ●第99回シンポジウム（本部）

テーマ：ISOマネジメントシステムの最新情報と企業の取組み

日 時：2004年7月15日(木)10:00~16:50

会 場：早稲田大学理工学部

57号館201号室

プログラム：

基調講演：ISOのMSSの有効活用（戦略的活用）についての考察

飯塚悦功氏（JSQC会長・東京大学）

発表① 品質マネジメントシステム規格の最新情報

飯塚悦功氏（東京大学）

発表② リスクマネジメントシステムの最新情報と企業の取組み

野口和彦氏（(株)三菱総合研究所）

発表③ 環境マネジメントシステム規格の最新情報

吉澤 正氏（帝京大学）

発表④ 企業の社会的責任（CSR）の最新情報と企業の取組み

若井博雄氏（(財)日本規格協会）

定 員：300名

参加費：会 員5,000円（締切後5,500円）

非会員7,000円（締切後7,500円）

準会員2,500円・一般学生3,500円

申込締切：2004年7月5日(月)

申込方法：ホームページから申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji>

## ●第301回（中部支部第73回）事業所見学会

テーマ：グローバル化に対応したものづくり

見学先：アスモ(株) 本社工場

日 時：2004年7月23日(金)13:30~16:25

定 員：40名（会員優先）

申込方法：会員No.・氏名・勤務先・所属役職・TEL・連絡先住所を明記の上、中部支部事務局までお申し込み下さい。

申込締切：7月9日(金)到着分

（但し定員になり次第締切）

参加費：会 員2,500円・準会員1,500円

非会員4,000円・一般学生2,000円

## ●第75回研究発表会（中部）

日 時：2004年9月3日(金)10:15~17:15

会 場：名古屋工業大学

参加費：会 員4,000円・準会員2,000円

非会員6,500円・一般学生3,000円

参加申込締切：8月27日(金)

7月送付予定の参加申込書にご記入の上、中部事務局までお申し込みください。

## 行事申込先

本 部：TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail: apply@jsqc.org

事務局携帯：090-9128-7979

中部支部：TEL 052-221-8318

FAX 052-203-4806

E-mail: nagoya51@jsa.or.jp

関西支部：TEL 06-6341-4627

FAX 06-6341-4615

E-mail: kansai@jsqc.org

## 教官公募

## 長岡技術科学大学教官公募のお知らせ

部 署 名：工学部経営情報系

所 在 地：〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町1603-1

職種と人員：教授 1人

勤務形態：常勤

研究分野：工学 経営工学

工学 情報工学

応募資格：担当までお問い合わせください

募集締切：2004年7月26日まで

着任時期：2004年11月1日、またはそれ以降のなるべく早い時期

応募書類：担当までお問い合わせください

選考方法：系内審査（書類審査、必要に応じ面接）を踏まえ教員選考委員会にて選考し教授会の議を経て決定する

担 当 者：経営情報系教授 中村 和男

E-mail nakamura@kjs.nagaokaut.ac.jp

URL <http://kjs.nagaokaut.ac.jp/>

## 東京理科大学 教員・嘱託助手公募のお知らせ

## ●教員公募

職名及び人数：工学部第一部経営工学科

教授、助教授または講師 1名

専門分野：統計学及びその関連分野

担当科目：統計工学、実験計画法、多変量解析、経営工学実験等

## ●嘱託助手募集

所属及び人数：工学部第一部経営工学科 嘱託助手 1名

専門分野：情報工学・システム工学及びそれに関連する分野

担当科目と任期：情報メディア実験及び数学演習 3年

応募資格・提出書類：担当までお問い合わせください

着任予定：平成17年4月1日

応募締切：平成16年9月30日(木)必着

問合せ先：工学部第一部経営工学科 学科主任 教授 山口俊和

電話03-5228-8351 E-mail yama@ms.kagu.tus.ac.jp